

令和6年度 学校自己評価書 (川南町立川南小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
Ⅰ 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ②「家庭学習の手引き」を活用した家庭との共通理解・共通実践	○家庭学習の重要性・必要性について保護者の理解を図り、家庭での見届けと、教師の励まし、称賛が連動して児童のやる気を引き出すようにする。	3	4	○家庭学習についての保護者評価の肯定的回答は、75%であった。 ●タブレットを持ち帰らせて学習に取り組ませることも行ったが、個人差・家庭差が見られる。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ⑪PTAの具体的取組の推進、親児の会との連携による児童の体験活動の充実	○学校運営協議会で本年度の最重要事項を決定し、一点突破で取り組んでいく。 ○PTA、地域の協力・支援を受けながら、人材育成の視点から児童の体験活動を充実させ、ふるさと川南への思いを深めさせる。	4		○第1回の学校運営協議会の熟議には、地区公民館長や主任児童委員、PTA三役、教職員にも参加してもらい「体験活動を通して、感謝の気持ちをもつ」というスローガンを決定することができた。また、第2回の学校運営協議会では、より具体的な活動のアイデアを出し合い、2学期以降の授業実践につなげることができた。
Ⅱ 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ③学校図書館の充実と積極的活用、町立図書館との連携	○児童の読書量を増やす取組を更に充実させる。 ○積極的な作品投稿を通して、学習意欲を喚起する。	4	4	○学級担任が定期的に図書の貸出の時間を設けるとともに、図書委員会(児童)の「読書玉入れ」という取組もあったため児童の読書量は多かった。 ○町図書館のリクエスト配本を利用し、様々なジャンルの本にふれる機会を設けることができた。 ○子ども新聞への積極的な投稿を行うことができた。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ①確かな学力の定着	○「自ら課題をもち、主体的に学び合う児童」を目指す子どもの姿と設定し、自発的な話し合い活動で学びを深める授業の構築していくことで、確かな学力を身に付けさせていく。	3		○職員研修(主題研修)として時間を設定し、児童の学習意欲が高まるような課題の設定の在り方や、自分の考えを分かりやすく伝える話し合い活動の在り方について研究することで、職員の授業実践力が高まった。 ●授業時間内で習熟の時間を確保し、児童の学力向上につなげていく。また、児童の個別最適な学びを充実させていく必要がある。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ④観察やアンケートを通じて、いじめや不登校への早期発見・早期対応	○日常の観察やアンケート、教育相談の時間を活用して、児童本人や児童間の実態や問題を早期につかみ、スクールカウンセラーを有効に活用しながら予防や解決に努める。	3		○「いのちの教育週間」や「人権週間」にあわせて目標を意識した道徳授業等を実践することができた。 ○児童の悩みや問題を早期につかみ、個別の相談を行っていくことで解決に努めることができた。気に係る児童にはスクールカウンセラーによるカウンセリングを行うことで、精神的な安定を図ることができた。
4	特別支援教育を推進する。 ⑤SWPBS的な取組による積極的な生徒指導の充実	○「川南っ子の1日」や「川小スタンダード」を基に、場面ごとに行動目標を設定して、具体的な指導を充実させていく。	4		○特別な配慮を必要とする児童に対して学級担任だけでなく、他の職員も連携して指導に当たることができた。 ○全職員が自己肯定感を高める指導(発達支持的生徒指導)を心がけることで、児童を健全に育成することができた。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ⑪保護者、地域との連携による未来を担う人財の育成	○PTA、地域の協力・支援を受けながら、人材育成の視点から児童の体験活動を充実させ、ふるさと川南への思いを深めさせる。	4		○ふれあい参観日(11月)は、保護者の参観率もよく、親子で交流できていた。 ●6年については趣旨にあっていないので、次年度は外部講師の話を事前に聞いておき、そこから得たものを児童が保護者へアウトプットするなどの工夫をしていきたい。
6	キャリア教育を推進する。 ⑥キャリア教育の充実	○年間を通じた地域人材の活用、ふれあい参観日におけるよのなか先生からの学びを通して、ふるさとに対して気付き、考える機会を確保する。	4		○地域人材を活用した授業が多く展開されている。そのため、児童評価の「川南が好き」の肯定的回答95%、「川南に役立ちたい」81%につながっていると考える。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ①効果的にICTを活用した授業や取組の充実	○授業においてタブレット(ソフトやアプリ)を思考ツールとして活用する授業を実践する。	4		○中学年以上は、学習に日常的にタブレットを使用している。教師は電子黒板(デジタル教科書)を効果的に活用した授業を展開している。また、ICT研修も行い、教師の資質向上に努めることができた。
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ○「新しい研修制度」に基づいた研修を充実させ、個々の資質向上を図る。	○キャリアステージに応じた資質能力を確認し、個々の目標を設定させた上で、学び続ける教師を育成する。	4	4	○教職員評価制度の目標設定ミーティングの際に、教員の育成指標を示して個々の今年度の目標を確認し、日々の業務を遂行させた。 ○分かりやすい授業についての肯定的回答の割合が高い。(保護者評価87%、児童評価95%)
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ⑧見守り隊、PTAと連携した登下校における安全指導の徹底	○災害について基本的なことを理解させ、実際の災害発生に準ずるような訓練を工夫し、判断力・行動力を高めていく。	3		○保護者の協力のもと、非常災害時の引き渡し訓練を実施することができた。 ●風水害時は、運動場がぬかるむため、引き渡し訓練の仕方を見直す必要がある。
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ⑨食についての正しい理解と習慣の定着を目指した食育の充実	○栄養教諭と連携した食に関する指導を通して、食についての正しい理解と望ましい食習慣を身に付けさせ、実践できるようにする。	4	4	○昼休みに外で遊ぶ児童は約8割である。 ○弁当の日は、ワークシートをデジタルデータとして児童より提出させた。高学年には栄養教諭より事前指導を行ったことで、児童自ら弁当を作る割合が増えた。